

平成22年3月31日  
大臣官房官庁営繕部

## 官庁営繕事業におけるB I M導入プロジェクトの開始について

官庁営繕部では、設計における3次元データの活用として、B I M (Building Information Modeling)を用いた設計を実施することとし準備を進めてきましたが、今般、平成22年度の官庁営繕事業において対象事案を設定し、B I Mを用いた設計を試行することとしたのでお知らせします。

国土交通省では、「国土交通省C A L S / E Cアクションプログラム2008」に基づく具体的な実施項目として、「3次元データを活用したモデル設計・施工の実施」を掲げており、今回の試行はその一環として実施するものです。

官庁営繕部では、設計・施工から維持管理に至る過程で一貫してB I Mを活用することが、施設整備・保全に係る行政コストの削減、官庁施設の品質確保、及び官庁施設における顧客満足度の向上に資すると考えており、平成22年度から、官庁営繕事業においてB I Mを導入したプロジェクトを試行的に実施することにより、B I M導入の効果・課題等を検証することとしております。

その第一歩として、平成22年度においては、主に基本設計段階でB I Mを用いることとした設計を試行します。

なお、詳細については、今後、試行の対象となる設計業務の発注の公示に合わせて発表していきます。

### (連絡先)

大臣官房官庁営繕部整備課 施設評価室長 吉田 (内線: 23511)

課長補佐 荒木 (内線: 23533)

(代表) 03-5253-8111 (直通) 03-5253-8238

## B I Mとは？

B I Mとは、**B**uilding **I**nformation **M**odeling の略称であり、コンピュータ上に作成した3次元の形状情報に加え、室等の名称や仕上げ、材料・部材の仕様・性能、コスト情報等、建物の属性情報を併せもつ建物情報モデル（以降、B I Mモデルという。）を構築することです。設計から施工、維持管理に至るまでの建築ライフサイクルのあらゆる工程でB I Mモデルを活用することは、建築生産や維持管理の効率化に繋がります。

## B I Mによる3つのメリットと営繕業務の変化

B I Mによるメリットとして、①設計内容の可視化、②建物情報の入力・整合性確認、③建物情報の統合・一元化の3つを挙げることができます。官庁営繕部では、B I Mによるメリットが営繕業務にもたらす変化の可能性として、次の3つに着目しています。

### 【営繕業務の3つの変化】

#### ①設計内容の可視化による変化

設計の透明性・説明性が高まり、関係者間における意思決定が迅速になる。

#### ②建物情報の入力・整合性確認による変化

官庁施設に必要な性能水準と合致した設計を、効率的・効果的に実施できる。

#### ③建物情報の統合・一元化による変化

設計・施工を通じて、施設管理者による施設の運営・管理や、官庁施設のファシリティマネジメントに活用可能な建物情報モデルを構築できる。